



青森県漁業士会会報

浜風

HAMAKAZE

26.3 vol.21

発行：青森県漁業士会

青森県水産振興課内

017-734-9592

編集：「浜風」編集委員会



平成25年度青森県漁業士会総会開催



平成25年5月18日（土）、青森県漁業士会通常総会がはじめて八戸市で開催されました。総会をはさんで、HACCP対応型魚市場の視察や、八戸自然保護官事務所の高橋瑛子氏による講演、翌日の館鼻岸壁朝市の視察など盛りだくさんで充実した内容になりました。

また、懇親会では、八戸水産高校の皆さんによる八水大漁太鼓が披露されました。アンコール演奏にも応じてくれて勇壮なばちさばきを堪能することができました。



新会員の紹介

平成25年度は、7名の青年漁業士が指導漁業士に移行し、新たに10名の青年漁業士が認定されました。認定式は、平成26年1月22日第55回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会の場で行われました。



○東青支部会



このたび、青年漁業士の認定を受けました溝江です。
私はホタテ養殖業を営んでおりますが、まだまだ未熟ですので、漁業士会の活動を通じ、諸先輩から幅広い知識や優れた技術を学びながら、漁業発展のため頑張っていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

青森市漁協奥内支所

溝江 健二 (ホタテガイ養殖)



ホタテ養殖業に従事してまだ日が浅く、未熟者な私ですが、漁業士会活動に積極的に参加し、漁業士の諸先輩方と交流を深め、水産業に取り組む姿勢、知識、技術など勉強させていただきたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。

青森市漁協奥内支所

杉田 良尚 (ホタテガイ養殖)



近年、陸奥湾のホタテ養殖業は高水温により何度も打撃を受けましたが、今、息を吹き返そうとしています。今後のホタテ養殖業は、親貝の確保、周年の環境等、ますます厳しくなると思われますので、漁業士会活動を通じ、知識と経験を積み、各地域の漁業士の方々と連携して解決していきたいと思っております。

青森市漁協原別支所

須藤 義弘 (ホタテガイ養殖)



ホタテガイ養殖と底建網に従事しております。
近年、海水の高水温や異常低気圧等、様々な問題が発生している中、他地域と情報交換し、指導漁業士としてのさらなる知識、技術及び人脈を積極的に広げ、漁業活動を盛り上げて参りたいと考えています。
これからもよろしくお願い致します。

外ヶ浜漁協

高坂 嘉男

(ホタテガイ養殖、底建網)



このたび、青年漁業士に認定していただきました青森市漁協奥内支所所属の奥谷進です。

ホタテガイ養殖に携わって18年になりますが、漁業者を取り巻く環境はこれまでにないほど厳しい状況が続いています。青年漁業士として自己研鑽に励み、この苦境を乗り越え、明るい未来を切り開けるよう努力して参ります。

青森市漁協奥内支所

奥谷 進

(ホタテガイ養殖)

独身で、嫁さん募集中です！



青森市飛鳥地区で父の指導の下、祖父の代から始めたホタテ養殖に従事しています。
平均海水温が、100年で1℃上昇すると言われていた地球温暖化の影響の中、夏季異常高水温や冬季のへい死、養殖籠への付着物など、取り組む課題が沢山ありますが、陸奥湾ホタテの安定供給を目指し、漁業士の方々と協力・連携していきたいと思っております。

青森市漁協奥内支所

七戸 忠平

(ホタテガイ養殖)



このたび、青年漁業士となりました野辺地町漁協所属の吉田です。

近年、社会では高齢化が進み、漁業も後継者不足になりつつあります。漁師の仕事がどんなものならやりたくなるのか、また、どうすれば若者が就業できる環境を作れるのか等、この機会に勉強して『後継者を育てる！』を目標に頑張っていきたいと思っております。

野辺地町漁協

吉田 東

(ホタテガイ養殖)

○むっ支部会



川内町漁協
菊池 昭博
(ホタテガイ養殖)

このたび、指導漁業士の認定を受けました川内町漁協所属の菊池です。

ホタテガイ養殖に従事して20年以上たちますがまだまだ未熟であり、これまで青年漁業士として活動して得たことを糧として、地域の漁業に貢献していきたいと思っています。

これからも皆様の指導を仰ぎ地域漁業の発展のため頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



横浜町漁協
中山 恒久
(ホタテガイ養殖)

指導漁業士の認定を受けました横浜町漁協の中山です。

ホタテ養殖を行っておりますが、近年は異常高水温などの影響で、ホタテ養殖にとっては厳しい環境が続いています。

指導漁業士として、他の漁業士の方々や県、町、漁協等関係者からの御協力を得ながら、地域漁業の発展や若手漁業者の育成にも力を入れていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。



泊漁協
佐藤 由仁
(定置網)

泊漁協の佐藤です。このたびは指導漁業士に認定して頂きありがとうございます。

これまで青年漁業士や地元の青年部として、漁業研究活動や水産物PR活動等に取り組んできましたが、これらの経験を活かし、今後は指導漁業士として、地域水産業の発展に貢献していきたいと考えておりますので、今後とも関係者の皆様の御支援、御協力をお願いします。



猿ヶ森漁協
川口 浩
(底建網)

このたび、指導漁業士の認定を受けました、猿ヶ森漁協の川口です。

これまで、漁業士の活動に参加し、県内外の漁業士とも交流させてもらったり、研修会を通して、色々な事を勉強させてもらい、自身にとって大変プラスになっていると思います。これからも、漁業士会の活動には積極的に参加し、地域振興、後継者育成に努めていきたいと思っておりますので、今後とも宜しく願います。



川内町漁協
光谷 武男
(ホタテガイ養殖)

このたび、指導漁業士の認定を受けました光谷です。

ホタテ養殖を主体として経営しておりますが、近年は貝毒による長引く活貝の出荷規制、夏場の高水温、異常潮流等により、ホタテ養殖も大変厳しい環境になってきております。

これまで青年漁業士として活動して得た経験と実績を活かし、地域漁業振興に加え、経営安定のため、関係各位皆様の御協力を頂きながら、日々努力して参りたいと思っております。まだまだ未熟ではありますが、今後とも御指導の程よろしくお願いいたします。



川内町漁協
高松 誠司
(ホタテガイ養殖)

このたび、青年漁業士の認定を受けました高松です。

私はホタテ養殖業に従事しておりますが、まだまだ経験が浅く、諸先輩方から学ぶことばかりです。

今後、他の漁業士の方の情報等を参考に、様々な活動に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



尻屋漁協
石田 壮拳
(定置網)

このたび、1月22日に青年漁業士の認定を受けました尻屋漁協所属の石田です。
私は、定置網漁に従事しながら、季節によって、フノリ、コンブ、ウニ、アワビ、タコ籠漁など、多種多様な漁をしています。
これから漁業士として、地域や漁協のために、一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。



大畑町漁協
佐藤 敏美
(定置網)

このたび、青年漁業士に認定していただき大変うれしく思っております。
現在行っている「水産振興」を目的とした大畑町漁業協同組合沿岸漁業協議会での活動、また「異業種との交流」を目的とした大畑小型定置網組合での諸活動(夕市等)を通し、知識・技術・伝統を次代の若者に継承していけるよう地域のリーダーとして努力していきたいと思います。



青年漁業士に認定していただきありがとうございます。
青年漁業士として、まず所属する「大畑小型定置網組合」を通し会員として参加している「大畑町漁業協同組合沿岸漁業協議会」で取り組むホヤの養殖を形あるものにする為に努力し、さらにこれから行う活動や事業にも積極的に参加し、地元地域の漁業活性化に努めています。

大畑町漁協
浜田 一步 (定置網)

○三八支部会



小川原湖漁協
沼辺 啓市 (船曳網漁・シジミ漁)

このたび、指導漁業士に認定されました。
ここ近年の異常気象により、小川原湖の魚貝類にあたる影響をどのようにしたら最小限におさえる事が出来るかなどの問題に対し、今後も漁業士会の研修会・交流会などで更に認識を高め、そして関係機関の方々の考えや意見を取り入れ活動していきたいと思えます



第19回全国青年・女性漁業者交流大会について

平成26年3月4日から5日、東京・千代田区の「グランドアーク半蔵門」で開催された大会において、「ナマコ資源増殖の取組」を発表した、川内町漁業協同組合 青年漁業士 美濃部文和さんが、「農林中央金庫理事長賞」を、「元気でなければ沖にでられない」を発表した、野辺地町漁業協同組合 指導漁業士 野坂ナリ子さんが「JF全国女性連会長賞」を受賞しました。

おめでとうございます。



平成25年度 東北・北海道ブロック漁業士研修会 並びに東日本女性漁業士交流会

平成26年1月11日～12日、東北・北海道ブロック漁業士研修会と東日本女性漁業交流会が、ともに茨城県で開催されました。

東北・北海道ブロック漁業士研修会は、「漁業の技術改革と経営革新」、「漁村・漁業復興の到達点」、「漁業後継者と担い手」をそれぞれ考える分科会にわかれてディスカッションが行われました。



東青支部会 大宮 千恵子



平成25年度東日本女性漁業士交流会は、平成26年1月11日から12日に、茨城県で開催されました。

女性漁業士は3つのグループに分かれ、「私達の漁村、漁業復興への歩み」をテーマに意見を交換しました。

宮城県、岩手県は、復興にはほど遠く、震災の爪跡が目に見えない傷跡として心の奥に残っていると感じました。岩手県の人々の「職を求めて多くの後継者が他地区へ移住した。復興の見通しがつかないこの土地に、この先若い人が帰って来るのか不安だ。」という声を聞き、後継者と一緒に仕事に従事できる私は幸せだと思いました。

福島県と隣接する茨城県で一番困っているのは風評被害でした。漁業士が一丸となって安心・安全をモットーに地道な販売活動を続けた結果、少しずつ、回復してきたという前向きな意見もありました。

翌日は大洗漁協女性部が運営する「かあちゃんの店」を見学し、元気なかあちゃん達の作った昼食を大変おいしく頂きました。店の前にはお客様が列を作り、店の中はお客様でいっぱいでした。

地産地消を目指し、地魚や魚価の安い魚をうまくメニューに取り入れ、収益を上げ、漁家収入や地域活性化に役立っている素晴らしい取組みに拍手を送りたいと思いました。



平成25年度日本海ブロック漁業士研修会

日本海支部会 大川 昭一

8月28日、29日に福井県あわら市で開催された平成25年度日本海ブロック漁業士研修会に、山下指導漁業士と参加しました。

会議には、青森県から山口県までの各県の漁業士や関係者など86名が出席し、大変盛況な研修会となりました。

話題提供として、地元の福井県から「海を耕す、海底耕耘の取組」、「漁民の森を育てる会」、「日向地区における藻場保全の取組」、「ワカメの一次加工」などの報告があり、福井県水産試験場からは「ズワイガニ、アカガレイの漁場を探るー福井県沖合いの底魚資源調査ー」と題した講演がありました。

その後、各県の漁業士会の活動について報告、意見交換が行われましたが、驚いたことに各県の漁業士会による「婚活」が一番の話題となりました。これまでは後継者問題などが取り沙汰されてきましたが、時代の流れを感じさせる研修会となりました。

来年度は京都府で開催予定とのことです。





支部会トピックス

○むつ支部会

私たちむつ支部会は、今年度新たに4名の会員を迎え、総勢76名となりました。子供たちを対象とした水産教室、研修会の開催、地域の活性化を図る豊漁・豊作祈願祭などの活動をしてきました。

平成25年6月29日には、東通村白糠地区において漁港清掃を行いました。清掃活動には地元の漁業者、女性部の皆さんにも参加してもらい、空き缶などのゴミ拾いに共に汗を流しました。白糠漁協様、各市町村担当者様など、御協力いただいた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

また、毎年4月から12月の「3の付く日」に、むつ来さまい館駐車場で『3の市』を開いています。水揚げした魚に付加価値をつけるために始まった『3の市』も今年で23年目を迎えます。これからも鮮度の良い魚をPRし、皆様に魚を食べてもらうよう頑張っていきたいと思えます。

最後に、昨年も下北では海難事故による死亡者が出ています。沖に出るときはライフジャケットの着用をお願いします。



漁港清掃の様子

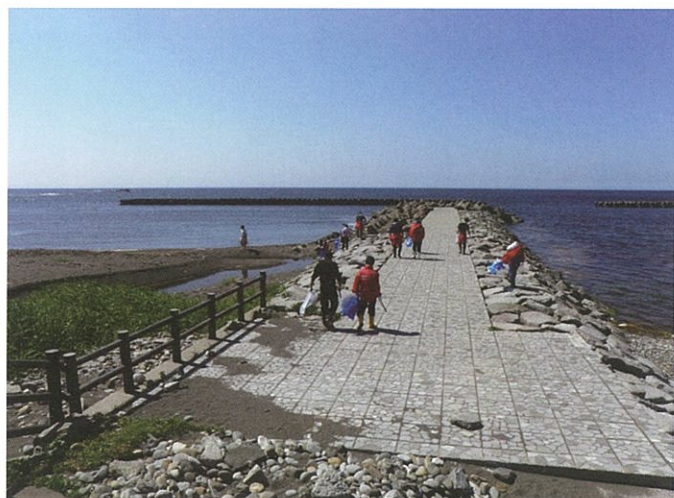


『3の市』年末特別開催（12/18）

○日本海支部会

1 海浜清掃

漁業士会日本海支部会が、平成25年6月11日、風合瀬海岸付近にて海浜清掃を行いました。11名の会員、風合瀬漁協の坂崎組合長、深浦町農林水産課及び鱒ヶ沢水産事務所職員の計14名が参加しました。好天に恵まれ、会員は汗をかきながらの作業となりました。集められたゴミは深浦町の御厚意により処分していただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。





2 勉強会

平成25年9月24日、鯺ヶ沢町において、(一社)青森県水産振興会と「日本海地区水産振興研修会」を共催しました。

中水青森中央水産株式会社の池田常務取締役をお招きし、「県内水産物の流通実態と消費者ニーズへの対応について」と題し講演いただきました。また、(地独)青森県産業技術センター食品総合研究所の奈良企画経営監から「水産業の6次産業化」について講演いただきました。

研修会には漁業士11名のほか、各漁協の組合長や職員、漁業者等計55名が参加しました。当支部会では初となる勉強会のため、共催の青森県水産振興会から多大なる御助力を頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

○三八漁業士会

隣県漁業士との交流会

平成25年2月13日から14日にかけて、岩手県久慈市、野田村において、青森県三八漁業士会と岩手県漁業士会久慈支部会との交流会が行われました。この交流会は平成8年から隔年開催で実施しており、今回で9回目となりました。隣り合う海域で漁業を行いながらも、県が異なるということではほとんど交流がなかったことから、広域的な漁業振興のため情報交換や交流を深めようと開催してきました。

東日本大震災の発生により、一年遅れでの開催となった9回目の交流会では、震災の被害状況や復興状況などについて報告が行われました。互いに漁業の復活、復興を誓い交流会は終了しました。翌日は野田村漁業協同組合のホタテ蓄養施設を見学しました。



○東青漁業士会

平内町漁協清水川支所 八戸 賀

9月6日に平成25年度第1回学習会兼交流会を開催しました。

平成22年から毎年のように夏季には高水温となっています。東青漁業士会には、ホタテガイ養殖業を主とする漁業者が多く、夏の悩みの種となっています。そこで、水産総合研究所の吉田 ぼたて 貝部長から高水温対策について講演していただきました。

私たちは、研究所の情報を基に対策していますが、作業の遅れを懸念して、フライング気味に作業を始めてしまいます。経験も大事ですが、データに裏付けられた作業工程を考え、進めることも大事だと思います。



また、漁業では些細なことが大きな事故や怪我に繋がります。そこで、私たちの労働環境を見直し、怪我がないように操業できるようにしたいと考え、高崎経済大学久宗教授をお迎えして労働環境カイゼン講習会を実施しました。安全に操業するための事例などが紹介され、自分たちが実践していない事例もあり、大変勉強になりました。

交流会は毎年恒例のボウリング。古株会員が意外と上手いですが、年齢には勝てないようです。若い会員はパワーボウラーですが精度は今ひとつ…

勉強もでき、ボウリング上位になると高額景品がありますので、是非東青漁業士会学習会兼交流会に参加してみたいか。私は今回の高額景品獲得者です。



平成26年度の総会は、下記の日程で開催する予定です。
多くの方の出席をお待ちしています。

★ 平成26年5月16日（金）
青森市内



水産行政トピックス

青森おさかな

サクラマス



桜の花が咲く頃に漁獲されることと、成熟した体色が桜色であることから「サクラマス」と呼ばれています。秋に河川で生まれ、1年半ほど河川で生活した後、海に下り、翌年の春から秋にかけて産卵のため、生まれた河川に戻ってきます。一生を河川で過ごすものをヤマメと呼びます。

ウスメバル



目が大きく張り出していて、体の模様が他のメバルに比べて薄いことから「ウスメバル」と呼ばれています。魚類では珍しく、交尾後に卵を体内でふ化させ、体長5mm前後に成長した仔魚（しぎょ：稚魚より小さな魚）を産む「胎生魚(たいせいぎょ)」です。

ウバガイ



寿命が30年以上とされる長寿にちなんで「ウバガイ(姥貝)」と呼ばれています。主産地が北海道・東北であり、北に寄る貝から「ホッキガイ(北寄貝)」と呼ばれるようになり、一般的にホッキガイの名で広く知られています。

トゲクリガニ



花見時期に出回るため、地元では「桜ガニ」とか「花見ガニ」とも言われ、青森の花見には欠かせないほど人気の高い食材です。本県、五所川原市金木出身の小説家太宰治はトゲクリガニが好物で、小説「津軽」の中で取り上げています。

クロマグロ



大間のマグロー一本釣りは、漁師とマグロがたった一本のテグス(釣り糸)で駆け引きを行う命を懸けた真剣勝負です。平成25年の初競りで222kgの大間マグロが、1億5,540万円の過去最高値を記録し、世界を驚かせました。

自慢 ～うまい魚はここにある～

マダラ



むつ市脇野沢（旧脇野沢村）は昔から「タラの里」として有名で、昭和20年にマダラの大豊漁で得られたお金で、戦闘機のゼロ戦など2機を国に献上した記録が残されています。

ホタテガイ



陸奥湾のホタテガイは、独特の甘みが特徴で、特に夏場になると貝柱の厚みがまし、旨さも増します。ホタテの活貝は貝柱の繊維が縦に並んでいるので、食べるときには輪切りではなく、縦方向に切ると食感を楽しむことができます。

スルメイカ



新鮮なスルメイカは透明感があり、コリコリとした食感があります。また、水揚げ後2～3日経過したスルメイカは、柔らかく甘みと旨味が更に増し、こちらも美味しくいただけます。高タンパク、低脂肪で、タウリンなどの栄養成分を含んでいます。

マサバ・ゴマサバ



八戸前沖は、例年9月になると海水温が低下しはじめ、そこで獲れるサバは粗脂肪分も30%に達するなど日本一脂ののった旨味のあるサバと評価されています。八戸市は「しめ鯖」の加工・製造が盛んで全国の約8割を製造しており、その品質・食味ともに市場から高い評価を得ています。

「青森おさかな自慢」とは

豊かな自然と漁場に恵まれ、年間を通じて四季折々に豊富で品質の高い、青森県内の美味しい「おさかな」を、エピソードやうんちく、漁師の思いやこだわりなど盛りだくさんの自慢情報で紹介しています。

ここに紹介した以外にも色々な魚種があります。ぜひ、ホームページをチェックしてみてください。

青森おさかな自慢

検索



漁業後継者育成研修 ひん よう じゆく 寶 陽 塾

平成26年度受講生募集のお知らせ

【研修内容】

- 1 漁業基礎研修（6月～7月：水産総合研究所）
 - ・水産知識 漁業関係法令・制度、栽培漁業・資源管理簿記漁業経営、ホタテガイ養殖
 - ・漁業技術 ロープワーク(各種ロープさつま加工)沿岸漁業実習(かご、さし網、釣り)
 - ・視察研修 県内の水産関連施設
- 2 現地研修（8月～2月：現地、食品総合研究所、下北ブランド研究所）
 - ・現地漁業実習 定置網、イカ釣り、ホタテガイ養殖
 - ・水産加工実習 水産物の加工、漁獲物の鮮度保持
- 3 資格取得講習（8月～11月：各講習開催場所）
 - 一級・二級小型船舶操縦士(※)、第三級海上特殊無線技士、潜水士
- 4 出前講座（8月～2月：現地）
 - 水産知識(座学)、ロープワーク等の技術講習



※一級・二級小型船舶操縦士資格取得講習を受講するには、漁業基礎研修を受講することが条件となります。

【募集要項】

募集人員：10名程度

通学方法：各自交通手段による通学制（水産総合研究所で行う研修を受講する場合は、同所内宿泊施設の利用も可能）

受講料：無料（資格取得のための経費は各受講者が負担）

応募資格：県内の漁業後継者または県内の漁業へ就業を希望する者（性別・年齢不問）

受付期間：平成26年2月1日～平成26年4月30日（出前講座は随時受付）

《お問い合わせ》

青森県農林水産部水産局水産振興課企画・普及グループ
地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所
東青地域県民局地域農林水産部青森地方水産業改良普及所
三八地域県民局地域農林水産部八戸水産事務所
下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所
西北地域県民局地域農林水産部鱒ヶ沢水産事務所

電話：017-734-9592

電話：017-755-2155

電話：017-756-2520

電話：0178-21-1185

電話：0175-22-8581

電話：0173-72-4300